クスノキ通信

全日本建設交運一般労働組合広島県本部
〒七三〇―〇八五三
広島市中区堺町一丁目二―九―三〇三
TEL（〇八二）二三五―三〇五〇
FAX（〇八二）二三五―三〇五二
e-mail
ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp

興国産業㈱は、不当労働行為をやめ、労働者にまともな賃金を直ちに支払え！

労働委員会への申し立てもおこない、要求前進を！

建交労興国産業支部の仲間は、社長のパワハラをきっかけに昨年三月に支部を結成し、同時にまともな賃金を支払うよう、賃上げ要求を提出し、組合結成以降、今年の三月三〇日まで会社と団交を重ねてきましたが、会社はまともに対応しません。

組合を嫌悪し、労働者を兵糧攻めに

組合結成前よりも百万円も賃下げに

会社は、組合結成以降、二〇二四年問題を逆手に取り、交渉でも社長は「これまではブラックに働かせてきたから、今後はホワイトに働いてもらうから」という始末。これまでの仕事を庸車（下請け）に出すなどで、労働者の賃金は下がる一方となっています。

これでは生活できないため、労働者はこれまでの残業代の未払い分を請求したことを口実に会社は「残業させると請求してくるから」と言い張る始末。この結果組合員の労働者の賃金は、組合結成前と比較すると、百万円も少なくなっている状況です。組合を嫌悪し、労働者を兵糧攻めにしているのが実態です。

昨年の3月11日の結成大会（写真上）と今年3月30日の会社前での宣伝行動

これでは生活できないと、職場を去る組合員も出ました。組合では議論し、県の労働委員会に申し立てすることを決定、労働弁護団の弁護士と話し合いを重ね、七月三一日付で、労働委員会に申し立ても行い、同時に団体交渉も進めることとしました。

門田委員長に不当労働行為を重ねる会社

この間、組合員に兵糧攻めを行う会社は、支部の門田久弘委員長にたいし何の根拠もなく「睡眠時無呼吸症候群」の検査を業務命令で受けさせ、「軽症状」という結果にもかかわらず、乗務からはずし「休職命令」をだすなど、あからさまな不当労働行為をおこない、経済的にも打撃を与えました。

産業医の最終判断で「運転に支障なし」の結論が出され、門田委員長は八月五日（月）からこれまでの運転業務に復帰しましたが、会社の根拠のない「業務命令」は明らかに不当労働行為であり、許すことはできません。

労働委員会での闘いに支援をお願いします

興国産業支部は広島県労働委員会での闘いをすすめるとともに、八月三一日（土）には会社との団体交渉を行います。

労働委員会での審問は、大体一か月に一回行われる予定ですが、第一回目は「一〇月初めごろ」（労働委員会）になる予定です。

広島県本部の各支部の皆さんの支援はもとより、広島県労連、福山地区労会議、そして全国の建交労の皆さんにもこの闘いへの支援を要請して闘います。（全国大会でも佐藤正幸代議員（県本部執行委員）が訴えます）

灯ろう流し、ローソクに灯をともしこれから元安川に流します（8月6日・山田撮影）

徒然草

お盆の最中（さなか）八月一四日に、岸田首相が、9月に予定されている自民党の総裁選挙に出馬せず退陣することを表明した。するとこのことを待っていたかのように、10人を超える総裁選挙立候補予定者が、次々に出てきた◆マスコミも、誰が次の自民党総裁・総理大臣になるのか、そのことの報道に熱中している。自民党からすれば「これで国民も裏金問題のことも忘れてくれるに違いない」と思っているのかもしれない◆岸田首相も、いろいろ考えたことと思うが、現状では、内閣の支持率は上がりそうもない、したがって自身の総裁選挙での再選は難しい。党内でも「岸田首相の元では選挙は戦えない」の声も出ている。しかし、誰かが立候補を名乗った後での不出馬宣言は、タイミングも悪い、潔いと思われるにはその前が良いと判断したに違いない◆裏金問題は、自民党の組織としての犯罪でもある。政治資金パーティーはいまだに閣僚も開催している。先の国会で政治資金規正法の「改正法」が成立したものの七～八割の人が「評価に値しない」と反発している◆このところの世論調査でも「野党による政権」交代を望む声が「自民党を中心とする政権」よりも大きくなっている。広島では、二〇一九年の参議院選挙での「河井克行元法務大臣による大買収事件」はまだ最終的な決着を見ていない。次々に起こる政治と金の問題に世論は引き続き厳しいものがある。（M）

広島での建交労交流会に21人が参加
2024年世界大会ヒロシマで核兵器廃絶を誓う

八月五日の午後五時半より、広島市中区の「ホテル・メルパルク」で、「二〇二四年原水禁世界大会建交労交流会 in ヒロシマ」が開催され、中央本部の角田季代子執行委員長はじめ、原水禁大会に参加した各都道府県本部や支部から二一人が参加しました。

福富保名書記次長の司会進行で行われ、角田委員長の主催者挨拶（写真上）に続いて、広島の「黒い雨」第二次訴訟の岡久郁子原告団長（写真中央）が講演。爆心地から二〇キロ離れた疎開先で黒い雨に遭ったこと、黒い雨にあった人は七九年間放置されてきたが、「黒い雨地域」を粘り強い被爆者の運動で広げてきた経過などを報告し、「黒い雨」被爆者の権利回復を速やかに実現するため裁判で闘っていることなど報告しました。

参加者からは「黒い雨のことは聞いたことがある」などの感想が述べられました。中学一年の娘さんと参加した組合員もいました。

交流会終了後は、場所を移動して「団結懇親会」で楽しく交流しました。

被爆七九年世界大会ヒロシマに5000人が参加

米軍による原爆投下から七九年の八月六日、原水爆禁止二〇二四年世界大会「ヒロシマデー集会」（閉会総会）が中区グリーンアリーナで開催され、リアル参加とオンライン参加合わせて五千人が参加しました。

国連のグテーレス事務総長の集会へのメッセージを国連事務次長で軍縮担当上級代表の中満泉氏が代読しました。オーストリアやメキシコの政府代表などが核兵器廃絶に向けて挨拶しました。ウクライナを侵略し続けるロシアのプーチン政権は核による威嚇を行い、イスラエルによるガザでのパレスチナ人虐殺など、核兵器を保有する国による、核攻撃を想定した演習や威嚇など、かつての米ソの冷戦時代よりも核をめぐる状況はより深刻になっていると言われています。

唯一の戦争被爆国である日本政府が「核兵器禁止条約」に署名・批准すれば、核兵器廃絶にむけて大きく前進すると思いますが、岸田首相は「核兵器廃絶はライフワーク」と言いながら、条約締結にはまったく背を向けたままです。

長崎の「黒い雨」被曝者も

集会では、全国各地で「日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准」を求める署名を全国で取り組んだ皆さんの元気な報告もありました。（写真下）

ナガサキでも広島同様に、「黒い雨」被曝者が、被曝の認定を求めて運動に取り組んでいることが、今年は特に大きく報道されています。

新型「コロナ」になお注意を！

最近新型コロナに感染した三人に話を聞きました。Aさん「夏なのに急に三八度の熱が出たので病院に行ったら『コロナ』と言われた。二度目だが症状は軽かった」。Bさん「新型コロナのPK3と言われた。味覚も感じにくくなって肺炎になりしんどい思いをした」。Cさん「（型は不明）コロナに罹り、肺炎になって、しんどくて家で寝ていた」など。

新型コロナの「第一一波」と言われていますが、診察と薬代で2万円くらいかかります。かかりつけの医師に聞くと「コロナの感染者は多くなっています。暑さが続きますが、睡眠を充分取り、人の多いところではマスク着用が有効です」と注意を呼び掛けていました。（M）

今後の組合行動日程など

八・二六　ダンプキャラバン行動
八・三〇　建交労中央執行委員会
八・三〇　第3回組織建設推進委員会（ズームでの会議）
八・三一　建交労第二六回定期大会（～九月二日・磯部ガーデンホテル）
九・七　興国産業支部の会社との団体交渉
九・八　県本部執行委員会
九・一八　広島県母親大会（午前一〇時～分科会）東広島市民文化センター、講師・伊藤千尋氏）
九・一八　建交労事業団高齢者部会総会
九・一九　建交労フェスタ第四回実行委員会（ズーム会議）
九・二一　広島県労連定期大会
九・二八　ヒロシマ労連定期大会（午後一時・市民交流プラザ）
九・二九　広島県労学協総会と記念講演（午後一時・広島ロードビル）
一〇・五　第二六回広島県本部定期大会（午後一時・市民交流プラザ）
一〇・一九　建交労事業団・高齢者・介護ヘルパー全国交流集会

お知らせ

※県本部の「クスノキ通信」は毎月一回発行しています。各支部や職場でのホットな話題や取り組みなど、身近な話題を、「メール」やファクスでお寄せください。メールとファクスは以下の通りです。お待ちしています。

ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp
Fax　〇八二―二三五―三〇五二